

たいけん とお まな しょきゅうにほんごこうざ
体験を通して学ぶ初級日本語講座

Japanese Course (Beginner's Level)
Learn through activities

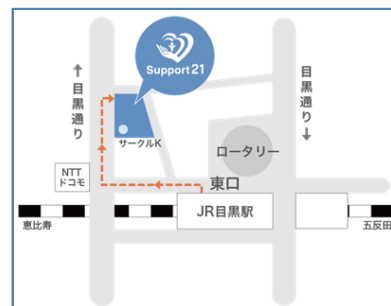
お りょう
無料
FREE!

にちじ ねん がつ にち がつ にち まいしゅう どようび
◆日時: **2017年5月13日 - 10月14日 毎週 土曜日**

May 13th - October 14th, 2017 Every Saturday

1:00pm - 4:10pm

ほしよ
◆場所: **さぽうと21 (目黒駅 東口徒歩3分)**
At Support 21
(3 minutes walk from Meguro Sta. East Exit)



まな
◆ **学ぶこと What We Learn** ◆

このコースでは、「街めぐり」「日本人とおしゃべりタイム」「防災センター体験」「料理」等の体験をする中で、「生活に必要な日本語力」を身につけ、コースが終わるまでには「自分の力で日本語を使って行動できる勇氣」をもてるようになることをめざしています。

The goal of this class is to give students the courage to use their own Japanese language skills in daily experiences. To help build those skills, this class will focus on language needed in everyday life and will include such activities as city excursions, a visit to the Disaster Prevention Center and cooking lessons, speaking opportunities with Japanese and much more.

にほんご う ひと はや れんらく
この日本語クラスを受けたい人は、さぽうと21に早めに連絡してください。

If you're interested in this class, please contact Support21 as soon as possible.

TEL: 03-5449-1331 / E-mail: info@support21.or.jp

しゃかいふくしほうじん

社会福祉法人 さぽうと21 Support21 Social Welfare Foundation

とうきょうと しながわく かみおおさき
〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル 6F

Mizuho Bldg. 6F, 2-12-2 Kamiosaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021

たいけん とお まな しょきゅうに ほん ご こう ざ
体験を通して学ぶ初級日本語講座

Japanese Course (Beginner's Level)
Learn through activities

お りょう
無料
FREE!

◆日時: 2017年10月21日 - 2018年3月17日 毎週 土曜日

October 21st, 2017 - March 17th, 2018 Every Saturday

1:00pm - 4:10pm

◆場所: さぽうと21 (目黒駅 東口徒歩3分)
At Support 21
(3 minutes walk from Meguro Sta. East Exit)



◆ 学ぶこと What We Learn ◆

このコースでは、「街めぐり」「日本人とのおしゃべりタイム」「防災センター体験」「料理」等の体験をする中で、「生活に必要な日本語力」を身につけ、コースが終わるまでには「自分の力で日本語を使って行動できる勇氣」をもてるようになることをめざしています。

The goal of this class is to give students the courage to use their own Japanese language skills in daily experiences. To help build those skills, this class will focus on language needed in everyday life and will include such activities as city excursions, a visit to the Disaster Prevention Center and cooking lessons, speaking opportunities with Japanese and much more.

この日本語クラスを受けたい人は、さぽうと21に早めに連絡してください。

If you're interested in this class, please contact Support21 as soon as possible.

TEL: 03-5449-1331 / E-mail: info@support21.or.jp

しゃかいふく し ほうじん

社会福祉法人 さぽうと21 Support21 Social Welfare Foundation

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズホビル 6F

Mizuho Bldg. 6F, 2-12-2 Kamiosaki, Shinagawa-ku, Tokyo 141-0021

おや こ き 親子で聞く



しん ろ はなし 進路の話

【日時】 にち じ 11月4日（土） がつ よっ か 12:00～1:30pm

かい 2回（12/2）、かい 3回（2/3）と続きます！！

【場所】 ば しょ さぽうと21

【講師】 こう し 高屋江梨子さん たか や え り こ（しん ろ じょうほう進路情報ネットワーク）



しん ろ き
・どうやって進路を決める？

だい が く せん もん が つ こ う ち が
・大学や専門学校の違いは？

くわ はなし
など、詳しくお話します！

だれ さん か さん か ひと もうしこみしよ
誰でも参加できます！参加したい人は、「申込書」を
か わた
書いてスタッフに渡してください。

社会福祉法人さぽうと21

TEL 03-5449-1331 <http://www.support21.or.jp>

【平成 29 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業】

日本語教室ボランティアのための ブラッシュアップ講座

ボランティア教室で活動中の皆さん、日頃の活動の中で戸惑ったり悩んだりすることはありませんか。皆さんの日々の活動がより生き生きとしたものになることを願って、今年度は「活動」を知る・学ぶ・体験するをテーマとして全8回の講座を行います。参加者皆で、共に学び、共に考えていきたいと思えます。やはり今年も、「参加」型の講座です。ぜひ一緒に学びましょう。

開催日 13:30-16:10		各回のテーマ・講師	※内容については一部変更の可能性があります。
1	11月26日(日)	「活動」へのウォーミングアップ 中山由佳 (早稲田大学・東京外国語大学・津田塾大学 非常勤講師、明治大学兼任講師)	
2	12月3日(日)	文型や表現、そして活動へ① 武田聡子 (NPO 法人日本語教育研究所 理事・主任研究員 桜美林大学、国土館大学、立教大学兼任講師)	
3	12月10日(日)	文型や表現、そして活動へ② 武一美 (早稲田大学日本語教育研究センター非常勤講師、NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ副理事長)	
4	12月24日(日)	「漢字」、活動を使って 安高紀子 (明治大学国際日本学部兼任講師) 菊池富美子 (明治大学国際日本学部兼任講師)	
5	1月21日(日)	文型や表現、そして活動へ③ 武田聡子	
6	2月4日(日)	文型や表現、そして活動へ④ 武田聡子	
7	2月18日(日)	「歌」って活動 下郡麻子 (友国際文化学院 非常勤講師)	
8	3月4日(日)	受講者どうしによる「活動」例の情報交換 奥原淳子・長崎清美 (本講座ナビゲーター)	

■対象：地域日本語教室でボランティアとして活動中の方（原則として全回受講可能な方）

※これまで当会の講座を受講したことのない方を優先させていただきます。

■会場：社会福祉法人さぽうと21 6階会議室

東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

JR 山手線「目黒駅」東口より徒歩 3 分

東急目黒線、三田線、南北線「目黒駅」正面口より徒歩 5 分



■申込方法：裏面申込書に必要事項をご記入の上、

メール、FAX、郵送のいずれかでご提出ください。

※申し込み期限は **11 月 20 日（月）** とさせていただきますが、

席数に限りがございますので、お早めにお申し込みください。



主催：社会福祉法人 さぽうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

TEL: 03-5449-1331 FAX: 03-5449-1332 E-mail: kensyu@support21.or.jp

さぽうと21は、日本で生活する難民、中国帰国者、日系定住者とその子弟の定住と自立に向けた支援を行う団体です。

今年度の「ブラッシュアップ講座」も「現場に役立つ講座」「お持ち帰りが実感できる講座」「共に学び合う楽しさを体感できる講座」を目指して進めていきます。
今年度は以下2名の方に「講座ナビゲーター」をお願いし、企画・運営しています。

※ ご記入いただいた情報は、無断で本講座以外の目的に使用することはありません。

難民への日本語教育を俯瞰する

多文化共生社会日本への「理解を深める講座」

【各団体（個人）からの実践の報告】

- 難民事業本部（RHQ） 難民認定者に対する公的支援としての日本語教育
- さぼうと 2 1 定住難民の生活力向上を目指した日本語教育
- 難民支援協会（JAR） 就労支援の一環としての日本語教育
- 伴野崇生さん 個人として関わる 就労・生活のための日本語教育
- カトリック東京国際センター（CTIC） 難民の居場所としての日本語教室
- PEACE 難民当事者が主催する日本語教室
- 日本国際社会事業団（ISSJ）
社会統合促進のためのムスリム系難民に対する日本語教育

【登壇者によるパネルディスカッション】

テーマ 「難民に対する日本語教育のこれから」

ファシリテーター 松尾 慎さん

日本に定住する難民にとって、日本語習得は「教育を受けるため」「仕事をするため」「地域社会の一員として生活するため」に欠かせない要素です。現在、日本国内で行われている難民に対する日本語教育を俯瞰し、現状を改めて確認することから、今後の難民に対する日本語教育のあり方について考えていきたいと思います。

■日時：2017 年 12 月 17 日（日）13 時～16 時 30 分

■会場：社会福祉法人さぼうと 2 1 6 階会議室

東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

JR 山手線「目黒駅」東口より徒歩 3 分、東急目黒線・三田線・南北線「目黒駅」正面口より徒歩 5 分

■対象：地域日本語教室や難民への日本語教育に関心のある方

■申込：以下メールフォームでお申込みください。

<https://goo.gl/forms/J4AFk6kFttejBsSL2>

* メール、お電話でのご連絡でもけっこうです。

* 申し込み期限は 12 月 15 日（金） とさせていただきますが
席数に限りがございますので、お早めにお申し込みください。

* 当日の写真撮影、録音は固くお断りいたします。



主催：社会福祉法人 さぼうと 2 1

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6 階

TEL: 03-5449-1331 FAX: 03-5449-1332 E-mail: kensyu@support21.or.jp

さぼうと 2 1 は、日本で生活する難民、中国帰国者、日系定住者とその子弟の定住と自立に向けた支援を行う団体です。

【平成 29 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業】

地域日本語教室ボランティアのための 活動基礎講座

ボランティア教室で活動を始めたばかりの皆さん、「日本語学習支援って何だろう」とか「外国人の学習者と楽しく時間を過ごせるのだろうか」とか、様々な不安をお持ちではないかと思います。そんな不安を抱いている方々のために、皆さんの日々の活動がより実り多いものになることを願って、今年度より「地域日本語教室ボランティアのための活動基礎講座」を開始します。皆様、ぜひご参加ください。

開催日	各回のテーマ・講師 ※内容については一部変更の可能性があります。	
	午前 10:00-12:00	午後 1:00-3:00
1 1月14日 (日)	A 1 「地域日本語教室に期待される役割とは？」 西原鈴子 (NPO 法人日本語教育研究所)	B 1 ① 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ① 矢崎理恵(社会福祉法人さぽうと21) B 2 ① 「技能実習生への日本語教育」を知る 黒羽千佳子 (公益財団法人国際研修協力機構(JITCO))
2 1月28日 (日)	A 2 「日本に暮らす外国人にとっての在留資格とは？」 金子琢哉 (品川区行政書士会)	B 1 ② 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ② 高柳なな枝(地球っ子クラブ2000) B 2 ② 「ビジネスマンへの日本語教育」を知る 綿引真知子 (株式会社 ビジネス日本語ソリューションズ)
3 2月11日 (日)	A 3 「異文化を理解する」とは？」 中村絵乃 (NPO 法人開発教育協会(DEAR))	B 3 「やさしい日本語」 岩田一成 (聖心女子大学文学部日本語日本文学科)
4 2月25日 (日)	A 4 「上手な聴き手になるには？」 麻生洋 (社会福祉士)	B 4 「日本語学習支援のきそのきそ・その1」 岩田一成 (聖心女子大学文学部日本語日本文学科)
5 3月11日 (日)	A 5 「外国人からの相談を受けたら？」 新居みどり (NPO 法人国際活動市民中心(CINGA))	B 5 「日本語学習支援のきそのきそ・その2」 岩田一成 (聖心女子大学文学部日本語日本文学科)

■対象：地域日本語教室でボランティアとして活動を始めて間もない方 30名

■会場：社会福祉法人さぽうと21 6階会議室

東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズビル 6 階

JR 山手線「目黒駅」東口より徒歩 3 分／メトロ「目黒駅」正面口より徒歩 5 分

※第 1 回、第 2 回は会場変更の可能性があります。ご承知おください。

■申込方法：裏面申込書に必要事項をご記入の上、メール、FAX の

いずれかでご提出ください。先着順にてお受けします。

当会ホームページ上からはメールフォームでのお申し込みも可能です。



主催：社会福祉法人 さぽうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズビル 6 階

TEL: 03-5449-1331 FAX: 03-5449-1332 E-mail: kensyu@support21.or.jp

さぽうと21は、日本で生活する難民、中国帰国者、日系定住者とその子弟の定住と自立に向けた支援を行う団体です。

ဂျပန်စာအခြေခံသင်တန်း နောက်ဆုံးမေးခွန်းလွှာ

1. 日本語クラスの時間(13時－15時40分)はどうでしたか。

၁။ ဂျပန်စာသင်တန်းချိန် (၁၃နာရီ မှ ၁၅နာရီ ၄၀ မိနစ်) ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ 早かった⇒何時からが良かったですか。(時からがよい)

သင်တန်းချိန်စောလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)

☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား

☐ 遅かった⇒何時からが良かったですか。(時からがよい)

သင်တန်းချိန်နောက်ကျလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)

2. 日本語クラスの頻度 (週に 1 回) はどうでしたか。

၂။ ဂျပန်စာသင်တန်းအကြိမ်(တပတ် ၁ ကြိမ်)ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ もっと多い方がよかった⇒(回ぐらい)

သင်တန်းကြိမ်ဒီထက်များဒါကောင်းသလား ⇒ (ကြိမ်လောက်သင်သင့်တယ်)

☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား

☐ もっと少ない方がよかった⇒(月に 回ぐらい)

သင်တန်းချိန်ဒီထက်နည်းဒါကောင်းသလား ⇒ (တလ ကြိမ်လောက်)

3. 日本語クラスの期間(10月－3月までの約 6 か月間)はどうでしたか。

၃။ ဂျပန်စာသင်တန်းကာလ (အောက်တိုဘာလ မှ မတ်လ အထိ ပျမ်းမျှ ၆ လ) သင်တန်းကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။

☐ 短い တိုတောင်းလွန်းသည် ☐ ちょうどよい အနေတော်ဖြစ်သည် ☐ 長い ကြာရှည်လွန်းသည်

4-1. クラスで配布したプリントなどについて、どう思いますか。自由に書いてください。

၄-၁။ သင်တန်းတွင်ဖြန့်ဝေသောစာရွက်စာတမ်းနှင့်ပတ်သက်၍သင်၏အမြင်ကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။

4-2. 今回のクラスでは、いわゆる「教科書」はありませんでした。それについてどう思いますか。

၄-၂။ ဒီသင်တန်းတွင် (ဖတ်စာအုပ်) ကိုအသုံးမပြုခြင်းအပေါ်မည်သို့ သဘောရပါသလည်း။

5. 授業の中で色々な体験(防災センター・街歩き・料理作りなど)をしました。それは何かあなたのプラスになりましたか。

၅။ သင်တန်းကာလအတွင်း လက်တွေ့ (မီးသတ်ဌာနသို့ သွားရောက်လေ့လာခြင်း ၊ မြို့တွင်းလှည့်လည်လေ့လာခြင်း ၊ ဟင်းချက်နည်းသင်ကြားခြင်း) ဤအရာများအားဖြင့်သင့်အတွက်တိုးတက်မှုရှိပါသလား။

☐ よく分からない တိုးတက်မှုရှိ/မရှိကိုမသိပါ

☐ プラスになった。⇒どんな点でプラスになったかを具体的に書いてください。

တိုးတက်မှုရှိပါသည်။ ⇒ မည်သို့သောအချက်ကတိုးတက်မှုရှိသည်ကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

☐ とくにプラスにはならなかった。

တိုးတက်မှုမရှိပါ။

6. 今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役立ちましたか。
6။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ဂျပန်နိုင်ငံတွင်နေထိုင်မှုအတွက်အထောက်အကူရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

7. 今回の日本語のクラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。
7။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၏ဂျပန်စာတိုးတက်မှုရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

8. 今回の日本語クラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。
8။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၌ဘာအပြောင်းအလဲရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။

9. 今回の日本語クラスは「日本で生活する外国人のための日本語クラス」でした。
၉။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းသည် (ဂျပန်နိုင်ငံအတွင်းနေထိုင်သည့်နိုင်ငံခြားသားများအတွက်ဂျပန်စာသင်တန်း) ဖြစ်သည်။
将来、またこのようなクラスを行う場合、どうしたら、もっと良いクラスになるとおもいますか。
နောက်နောင်ကျိကဲ့သို့ သောသင်တန်းကိုဖွင့်လှစ်လျှင် မည်ကဲ့သို့ သောအကြောင်းအရာများသင်ကြားပါကပို၍
ကောင်းသောသင်တန်းဖြစ်မယ်လို့ ထင်ပါသလည်း။

10. 受講しての感想を自由に書いてください。
၁၀။ သင်တန်းတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ခံစားချက်၊ထင်မြင်ချက်၊သဘောတရားကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။

Japanese Class for beginners

Final questionnaire

1. 日本語クラスの時間(13時－16時10分)はどうでしたか。

What did you think of the classes' time schedule, 13:00 — 16:10 ?

☐ 早かった⇒何時からがいいですか。(時からがいい)

Too early What time is desirable to start the classes ? (from :)

☐ ちょうどよい

Appropriate

☐ 遅かった⇒何時からがいいですか。(時からがいい)

Too late What time is desirable to start the classes ? (from :)

2. 日本語クラスの頻度(週に1回)はどうでしたか。

How did you like the frequency of the classes being once a week ?

☐ もっと多い方がよかった⇒(回ぐらい)

More often (times a week)

☐ ちょうどよい

Appropriate

☐ もっと少ない方が良かった⇒(月に 回ぐらい)

Not so often (times a month)

3. 日本語クラスの期間(5月－10月までの約6か月間)はどうでしたか。

Length of the term of the Japanese classes, about 6 months, from May to October

☐ 短い ☐ ちょうどよい ☐ 長い

Too short Appropriate Too long

- 4－1. クラスで配布したプリントなどについて、どう思いますか。自由に書いてください。

How did you like the printed material hand-out during the classes ? Any comments.

- 4－2. 今回のクラスでは、いわゆる「教科書」はありませんでした。それについてどう思いますか。

What did you think of the classes without the so called “textbook”?

5. 授業の中で色々な体験(防災センター・街歩き・料理作りなど)をしました。それは何かあなたのプラスになりましたか。

We provided the experience oriented classes such as visiting disaster prevention center, strolling around the town, cooking and so on. Were they of help to you ?

☐ よく分からない

Don't know

☐ プラスになった。⇒どんな点でプラスになったかを具体的に書いてください。

If "Yes", please describe specifically how they helped you.

☐ とくにプラスにはならなかった。

They didn't help at all.

6. 今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役立ちましたか。

Were these Japanese classes of any help to you in your daily life in Japan?

受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。

Specify how it helped, comparing before and after attending the classes.

7. 今回の日本語のクラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。

Have your Japanese skills improved after taking the classes ?

受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。

Specify how it improved, comparing before and after attending the classes.

8. 今回の日本語クラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。

Have you felt any changes in yourself after attending the classes?

受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。

Please specify how it changed, comparing before and after attending the classes.

9. 今回の日本語クラスは「日本で生活する外国人のための日本語クラス」でした。

This Japanese course was planned for the foreign residents.

将来、またこのようなクラスを行う場合、どうしたら、もっと良いクラスになると思いますか。

If you have any advice towards improving the classes, feel free to extend it to us.

10. 受講しての感想を自由に書いてください。

Do you have any comments after attending the classes.

ご協力ありがとうございました。(さぼうと21)

Thank you for your cooperation. (Support21)

ဂျပန်စာအခြေခံသင်တန်း နောက်ဆုံးမေးခွန်းလွှာ

1. 日本語クラスの時間(13時－15時40分)はどうでしたか。
 - ㉑ 日本語သင်တန်းချိန် (၁၃နာရီ မှ ၁၅နာရီ ၄၀ မိနစ်) ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။
 - ☐ 早かった⇒何時からが良かったですか。(時からが良かったです)
 သင်တန်းချိန်စောလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)
 - ☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား
 - ☐ 遅かった⇒何時からが良かったですか。(時からが良かったです)
 သင်တန်းချိန်နောက်ကျလွန်းသလား ⇒ ဘယ်အချိန်ဆိုအစဉ်ပြေမလည်း။ (နာရီစရင်အစဉ်ပြေမယ်)
 2. 日本語クラスの頻度 (週に 1 回) はどうでしたか。
 - ㉒ 日本語သင်တန်းအကြိမ်(တပတ် ၁ ကြိမ်)ပြုလုပ်သည်ကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။
 - ☐ もっと多い方がよかった⇒(回ぐらい)
 သင်တန်းကြိမ်ထက်များဒါကောင်းသလား ⇒ (ကြိမ်လောက်သင့်သင့်တယ်)
 - ☐ ちょうどよい အတော်ဘဲလား
 - ☐ もっと少ない方が良かった⇒(月に 回ぐらい)
 သင်တန်းချိန်ဒီထက်နည်းဒါကောင်းသလား ⇒ (တလ ကြိမ်လောက်)
 3. 日本語クラスの期間(10月－3月までの約 6 か月間)はどうでしたか。
 - ㉓ 日本語သင်တန်းကာလ (အောက်တိုဘာလ မှ မတ်လ အထိ ပျမ်းမျှ ၆ လ) သင်တန်းကိုဘယ်လိုသဘောရပါသလည်း။
 - ☐ 短い တိုတောင်းလွန်းသည် ☐ ちょうど良い အနေတော်ဖြစ်သည် ☐ 長い ကြာရှည်လွန်းသည်
- 4-1. クラスで配布したプリントなどについて、どう思いますか。自由に書いてください。
- ၄-၁။ သင်တန်းတွင်ဖြန့်ဝေသောစာရွက်စာတမ်းနှင့်ပတ်သက်၍သင်၏အမြင်ကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။
-
- 4-2. 今回のクラスでは、いわゆる「教科書」はありませんでした。それについてどう思いますか。
- ၄-၂။ ဒီသင်တန်းတွင် (ဖတ်စာအုပ်) ကိုအသုံးမပြုခြင်းအပေါ်မည်သို့ သဘောရပါသလည်း။
-
5. 授業の中で色々な体験(防災センタ・街歩き・料理作りなど)をしました。それは何かあなたのプラスになりましたか。
- ၅။ သင်တန်းကာလအတွင်း လက်တွေ့ (မီးသတ်ဌာနသို့ သွားရောက်လေ့လာခြင်း ၊ မြို့တွင်းလှည့်လည်လေ့လာခြင်း ၊ ဟင်းချက်နည်းသင်ကြားခြင်း) ဤအရာများအားဖြင့်သင့်အတွက်တိုးတက်မှုရှိပါသလား။
- ☐ よく分からない တိုးတက်မှုရှိ/မရှိမသိပါ
 - ☐ プラスになった。⇒どんな点でプラスになったかを具体的に書いてください。
 တိုးတက်မှုရှိပါသည်။ ⇒ မည်သို့သောအချက်ကတိုးတက်မှုရှိသည်ကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။
-
- ☐ とくにプラスにはならなかった。 တိုးတက်မှုမရှိပါ။
-

6. 今回の日本語クラスは、あなたの日本での生活に役立ちましたか。
6။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ဂျပန်နိုင်ငံတွင်နေထိုင်မှုအတွက်အထောက်အကူရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။
-
-

7. 今回の日本語のクラスを受講して、あなたの日本語力は伸びましたか。
7။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၏ဂျပန်စာတိုးတက်မှုရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။
-
-

8. 今回の日本語クラスを受講して、あなた自身に何か変化はありましたか。
8။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းကိုတက်ရောက်ခြင်းဖြင့်သင့်၌ဘာအပြောင်းအလဲရှိပါသလား။
受講する前と今を比べて、具体的に書いてください。
သင်တန်းမတက်မှီနှင့်တက်ရောက်ပြီးသင်၏တိုးတက်မှုကိုအသေးစိတ်ရေးပါ။
-
-

9. 今回の日本語クラスは「日本で生活する外国人のための日本語クラス」でした。
9။ ဒီဂျပန်စာသင်တန်းသည် (ဂျပန်နိုင်ငံအတွင်းနေထိုင်သည့်နိုင်ငံခြားသားများအတွက်ဂျပန်စာသင်တန်း) ဖြစ်သည်။
将来、またこのようなクラスを行う場合、どうしたら、もっと良いクラスになると思いますか。
နောက်နောင်ကျင့်သို့ သောသင်တန်းကိုဖွင့်လှစ်လျှင် မည်ကဲ့သို့ သောအကြောင်းအရာများသင်ကြားပါကပို၍
ကောင်းသောသင်တန်းဖြစ်မယ်လို့ ထင်ပါသလည်း။
-
-
-

10. 受講しての感想を自由に書いてください。
၁၀။ သင်တန်းတက်ရောက်ပြီးသင့်၏ခံစားချက်၊ထင်မြင်ချက်၊သဘောတရားကိုလွတ်လပ်စွာရေးပါ။
-
-
-

今日の活動

1. 今日の内容は全体的にいかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

第1回～第8回までの講座全体の活動

1. 第1回～8回まで、全体的に講座内容はいかがでしたか。○をつけてください。

大変有意義だった 有意義だった どちらでもない あまり有意義ではなかった 全く有意義ではなかった

2. どのような点からそう思われましたか。

3. 本講座は「教材」をテーマにしました。このテーマについて、どう思われますか。

4. その他、ご意見やご感想など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

2017（平成 29）年度
理解を深める講座「難民への日本語教育を俯瞰する」

■「各団体（個人）からの実践の報告」について

(1) 内容は、「難民への日本語教育」に関する理解を深めるのに役立ちましたか。

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

理由：

(2) 特に関心をもったことは何ですか。

■「登壇者によるパネルディスカッション」について

(1) 内容は、「難民への日本語教育の課題」を理解するのに役立ちましたか？

大変役立った 役立った どちらとも言えない あまり役立たなかった 全く役立たなかった

(2) 特に関心をもったことや感想などお書きください。

■その他、全体を通じてのご感想や今後開催を希望する講座など、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました！

1. 午前:「外国人からの相談を受けたら?」(外国人からの相談にどう対応するか、しないかを考える)は地域日本語教室での日本語学習支援の活動をするために、役立ちましたか。○をつけてください。

大変役に立った 役に立った どちらでもない あまり役に立たなかった 全く役に立たなかった

どのような点からそのように感じられましたか。また、何かご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

2. 午後:「日本語学習支援のきそのきそ②」は地域での日本語学習支援の活動を進めていく(または、多文化共生社会の現場で活動をする)ために、役立ちましたか。○をつけてください。

大変役に立った 役に立った どちらでもない あまり役に立たなかった 全く役に立たなかった

どのような点からそのように感じられましたか。また、何かご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

※以下は文化庁よりご依頼のアンケートです。

- 1 このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか。

- ①深まったと思う
- ②まあまあ深まったと思う
- ③深まらなかった
- ④分からない

- 2 このプログラムを受けて「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いましたか。

※日本語教育のボランティアをしたことがない方のみお答えください。

- ①関わってみたいと思う
- ②できれば関わってみたいと思う
- ③関わってみたいと思わない
- ④分からない

アンケート

【午前の部】 キーワード「多文化共生」「外国人住民」	【午後の部】 キーワード「地域日本語教育」「実践」
A 1 日本語教育の全体像を俯瞰しながら、地域日本語教室に期待される役割を考える	B 1 ①② 「地域での日本語教育の実践」に学ぶ（地域での日本語教育に関わる方の実践を聞き、活動展開の広がりや面白さを知る）
A 2 日本に暮らす「外国人」が、「在留資格」によりどのような可能性と、拘束が生じるのかを知る	B 2 ①② 「特定分野の学習者への日本語教育」を知る（様々なタイプの学習者への日本語教育に関わる方の実践を聞き、地域日本語教育の果たすべき役割を考える）
A 3 「異文化を理解する」ことを実感をもって学ぶ	B 3 「やさしい日本語」って何？
A 4 「上手な聴き手になる」ための入り口に立つ」（「聴くこと」の専門家からお話をきく）	B 4 「日本語学習支援のきそのきそ・その 1」
A 5 「外国人からの相談にどう対応するか、しないか」を考える（「外国人相談」の専門家からお話をきく）	B 5 「日本語学習支援のきそのきそ・その 2」

3. 全5回、9つのテーマで実施した「活動基礎講座」でしたが、とくに印象に残ったことを教えてください。

具体的に「どのテーマ、どの話題、どの講師の話やワークが良かった」とか、「このテーマはあまり活動基礎講座で学ぶ必要はないように思った」など、ご自由にお書きください。

[illegible]

4. 今後も、地域日本語教室で活動を始めたいと思っている方々、活動を始めただけの方々に向けて、「活動基礎講座」を実施していきたいと考えています。「こんな講座があったらよいのではないか」「こんな内容も始まりの段階では必要ではないか」と思われるものがありましたら、お書きください。

ご協力ありがとうございました！

平成 2 9 年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業（A）

難民への日本語教育を俯瞰する

【参考資料】

社会福祉法人さぽうと 2 1
2017.12.17

2018年3月18日更新

日本にいる難民

 **インドシナ難民**

 **条約難民 + 在留特別許可者**

 **第三国定住難民**

インドシナ難民

1975年のベトナム戦争 終結前後 の混乱の中、**インドシナ3国**（**ベトナム・ラオス・カンボジア**）で発足した新しい政治体制を拒否して国外へ脱出した人々（ボートピープル）



© UNHCR/8268/1978/K.Gaugler

11,319人

難民事業本部 統計
(1978年 ~ 2005年末)

* 2005年12月末で受け入れ終了

条約難民



難民条約に定義された **難民の要件に該当する** と判断された人

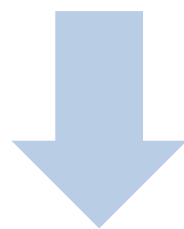


(法務省 統計 : 1982年 ~ 2017年)

「難民」の定義

難民の地位に関する条約

難民とは、人種・宗教・国籍 もしくは 特定の 社会的集団
の 構成員 であること 又は 政治的意見 を理由に 迫害 を
受けるか、そのおそれがあることから、国籍国の保護を
受けられない、またはそれを望まない者

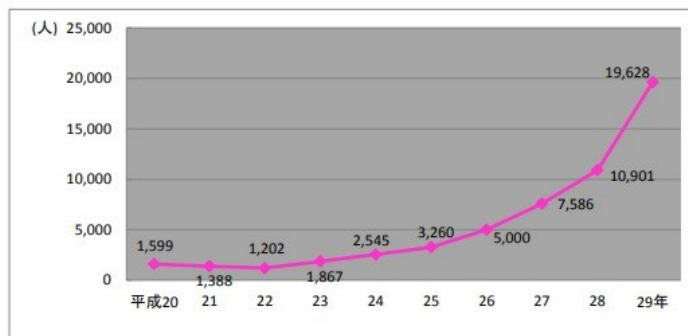


日本は、1981年 に 難民条約 加入

現在の状況(平成29年)

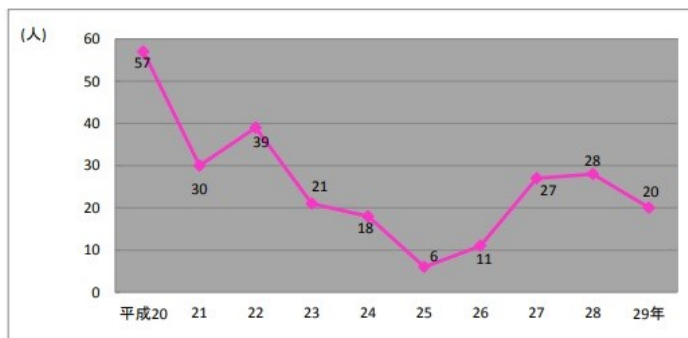
① 難民認定申請数の推移

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
申請者数	1,599	1,388	1,202	1,867	2,545	3,260	5,000	7,586	10,901	19,628



② 難民認定者数の推移

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
難民認定者数	57	30	39	21	18	6	11	27	28	20



【平成29年】

◆ 難民申請者数
19,628人

◆ 難民認定数
20人

◆ 人道配慮による在留許可数
45人

母国の情勢による判断
シリア 4人, ミャンマー 3人
イラク 2人, コンゴ民主共和国 2人

平成30年2月13日 法務省入国管理局発表

現在の状況(平成29年)

難民申請数上位10か国

① フィリピン	4,895人
② ベトナム	3,116人
③ スリランカ	2,226人
④ インドネシア	2,038人
⑤ ネパール	1,450人
⑥ トルコ	1,195人
⑦ ミャンマー	962人
⑧ カンボジア	772人
⑨ インド	601人
⑩ パキスタン	469人

難民認定数上位4か国 2017

① エジプト	7人
② シリア	5人
③ エリトリア	3人

難民認定数上位4か国 2016

① アフガニスタン	7人
② エチオピア	4人
③ エリトリア	3人

平成30年2月13日 法務省入国管理局発表

第三国定住難民

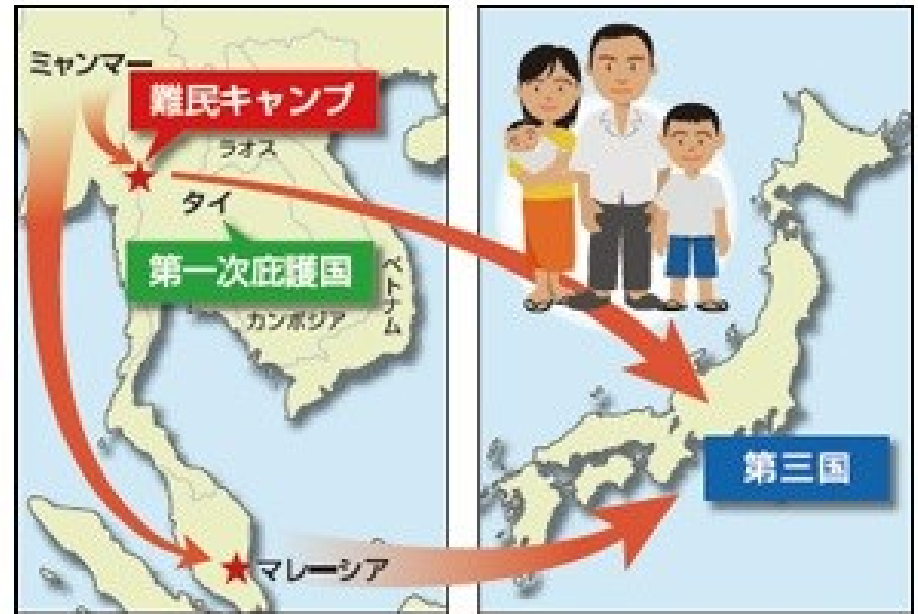
母国を逃れ、**難民キャンプ**などで一時的な庇護を受けている難民が、受け入れに合意した別の**第三国**に移り住み、定住するという事業。（5年間のパイロットケースを経て、2015年度から本格実施）

↓

39家族 **152**名

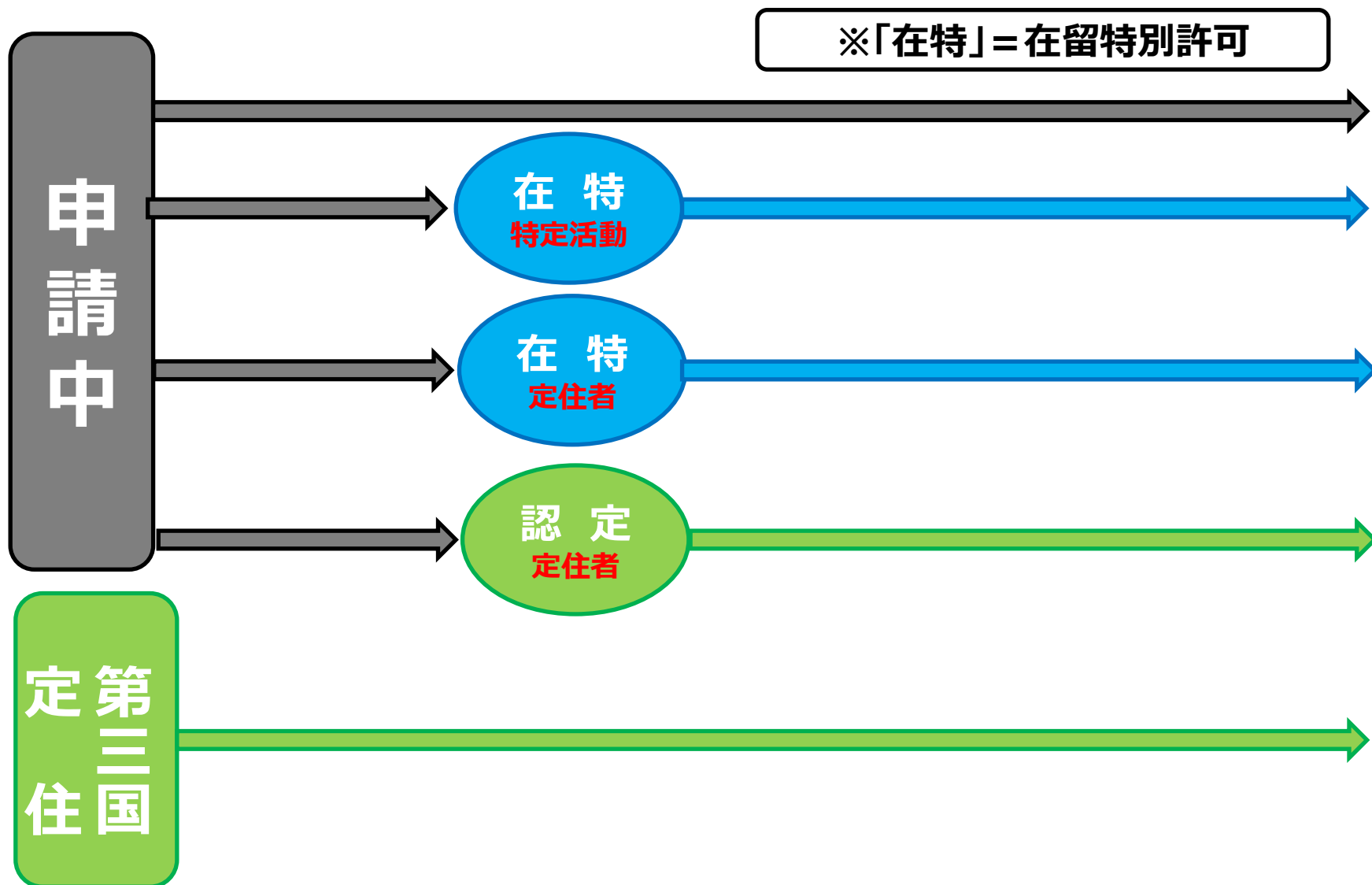
（2010年～2017年）

* 主に 三重県、埼玉県、千葉県 内に定住

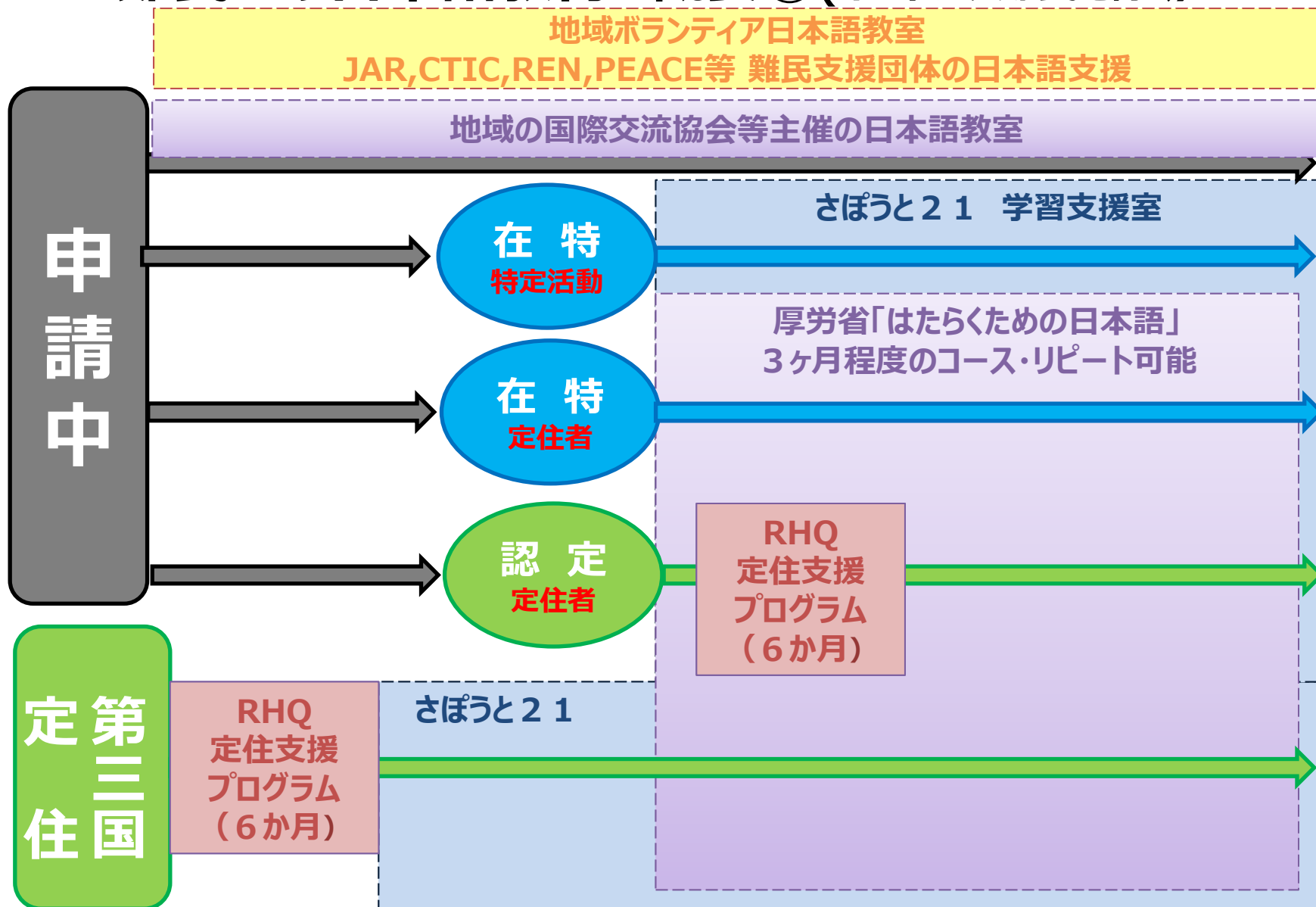


（公財）アジア福祉教育財団 難民事業本部：
<http://www.rhq.gr.jp/japanese/know/daisangoku.htm>

■ 難民への日本語教育 概要①(インドシナ難民を除く)



■ 難民への日本語教育 概要①(インドシナ難民を除く)



地域日本語教室への参加等
自立・定住へ

条約難民

入

難民申請

難民認定(法務省)

**定住支援施設における
定住支援プログラム**

日本語教育プログラム(約180日間)
日本への定住に必要とされる
最低限の基礎日本語能力の習得

日本語教育相談員による指導・助言及び日本語学習教材の支援等

第三国定住難民

国

出国前研修(外務省)
申請難民選考(法務省)

**定住支援施設における
定住支援プログラム**

日本語教育プログラム(約180日間)
日本への定住に必要とされる
最低限の基礎日本語能力の習得

**定住支援施設退所後の
定住先における
日本語教育支援**

難民の定住先の自治体と連携を
図りながら継続的に日本語を学習
できるよう、地域の実状に応じた
日本語教育の支援体制を構築する。

日本語教育の効果について半年ごとに調査を実施

日本語教育相談員による指導・助言及び日本語学習教材の支援等

■ 問題点として考えられること

- 第三国定住難民に対しては「定住支援プログラム」の一環として来日直後に一定期間の日本語教育も行われるが、その他の場合、来日直後の段階で日本語を学べる場が非常に限られる。
- 難民認定された場合は「定住支援プログラム」を受けることは可能だが、プログラムを受けるかどうかは各人の判断による。申請から認定までにかかなりの年月が経ってしまうことが多いため、すでに就労していて、その仕事を離れることができなかつたり、日本語学習の意欲を失っていたりして、「定住支援プログラム」を受けない(受けられない) 状況も起こりうる。

■ 問題点として考えられること

- 難民に限らず、日本社会の入り口段階で、公的な、日本語教育の専門家による日本語学習の機会がほとんどない。
- 第三国定住難民の場合であれ、条約難民であれ、定住支援プログラム(6 か月もしくは 1 年) 以降には、「特別な」日本語学習プログラムは提供されない。「継続」が保障されていない。
- 結果的に地域のボランティア日本語教室に頼ることが現実的な選択であるが、そうした場になじめない難民(申請者) も多い。同国人との不用意な遭遇を恐れて(嫌って) 、地域日本語教室に足を向けられない場合も多い。

■ 難民であるがゆえの困難

- 帰国の選択肢が非常に少ない
- （難民の）自国の保護が受けられない
- 同国出身でも、他のステイタスで日本に在留する人と、同じ場を共有することはできない（机を並べて仲よく勉強するわけにはいかない）
- 「目的をもって」「日本を選んで」来日したのではないことから、定住するに必要なリソースが十分でない場合も多い。経済的にも精神的にも困難な状況から「生活」を、日本語を身につけていかなければならない。
- 上記のような事情を一般には理解してもらいにくい

■ 難民であるがゆえの困難

- 帰国の選択肢が非常に少ない

- (難民の)

- 国

-

から

- 上記のような事情で

日本語学習の必要性は
非常に高く、
日本語学習の機会は
非常に少ない

【難民への日本語教育を俯瞰する】

2017年12月17日実施

団体名	公益財団法人アジア福祉教育財団 難民事業本部	公益社団法人 国際日本語普及協会	社会福祉法人さぼうと 2 1		NPO法人難民自立支援ネットワーク（REN）
講座発表 テーマ	難民認定者に対する公的支援としての日本語教育		定住難民に対する日本語教育	（体験を通して学ぶ日本語講座）	
日本語教育 の目的	・日本社会で日常生活を営むために必要な日本語の基礎 4 技能（聞く・話す・読む・書く）の習得。 ・職場生活／学校生活を送るために必要な日本語の基礎能力の習得。 ・日本への定住促進及び円滑化のために必要な日本社会の生活様式、社会習慣等についての基礎的な知識の習得	日本語力向上を通して難民を中心とした在住外国人の生活の基盤作りとその後のQOL、社会参加、自己実現を支援する	定住難民の生活力向上、自己実現・社会参加の手助け、子どもの日本語力／学力の向上	・日本で生活するのに必要な最小限の日本語の習得 ・自身の力で日常生活を送ろう、必要な時には助けを求めようと思える意識を養うこと ・ひらがな、カタカナ、ある程度の漢字の基礎を身につけること	来日1年以内（時には数か月）の難民が主対象で、初歩の日本語指導と、日常生活で必要な会話を通しての生活指導。
活動場所 （区市町村）	都内定住支援施設（非公開）	港区 地下鉄神谷町駅近く	目黒教室：品川区当会事務所 錦糸町教室：墨田区貸し会議室	品川区内（目黒駅近く）	目黒区・文京区
活動日・時間	昼間コース月-金9:30-15:50 （第三国は土9:30-12:10もあり） 夜間コース月-金18:30-20:55	毎週木曜日18:30-20:30	■品川区（目黒教室） 毎週土曜日10:00-18:00 ■墨田区（錦糸町教室） 毎週日曜日13:00-17:00 ＊学習時間帯は個々に異なる	毎週土曜日13:00-16:10	毎週水曜日2:00-15:30 日本語教室終了後、ヨガ教室を実施
学習期間	572時間（1授業時間＝45分）	毎年度5月～3月開講 この期間は随時参加可能、終了の定めなし	随時開始、終了の定めなし	春夏教室：4月～9月・20回 秋冬教室：10月～3月・20回	基本的に、8月を除き毎月毎週 随時受け入れ、終了の定めなし
対象者	条約難民・第三国定住難民（大人・子ども）	難民（申請者、認定者、在留特別許可）を中心とした在住外国人 成人（20代～70代）	定住が確定した難民等 小学校1年生～70代の成人まで	日本で難民申請をした方	難民申請中の難民家族 子供達（未就学児童）には、別メニューで実施 仮放免日本語既習者。
学習者募集 の方法	入国管理局、HP・コミュニティ等を通じて案内。受講者募集説明会を実施。	学習者からの紹介、ちらし（日、英、ミャンマー語）、ML、FB	他団体からの紹介、学習者からの紹介	当会ホームページ、FRJメーリス、当会学習支援室内告知	難民支援団体からの紹介及びその友人などからの紹介
学習支援者	公益社団法人国際日本語普及協会教師会員を中心としたプロの日本語講師	公益社団法人国際日本語普及協会教師会員の日本語講師、コース後半は併設の支援者研修の受講生も参加して支援	全てボランティア（日本語教師や有資格者含み、基本的には大学生から定年退職者まで） ＊大正大学、明治学院大学より実習生受入（各数か月、複数名）	日本語教師有資格者（難民への日本語教育の経験が必要に応じて保育の配置 アシスタントボランティア1名以上	資格保持者2, 3名とボランティアのアシスタント数名。必要に応じて、子連れ学習者の保育アシスタント。
学習支援者 募集の方法		併設支援者研修の受講生は港区国際交流協会等地域への広報、関連団体へのML、FB、口コミ	TVAC Webページ、ボランティア所属の企業内での「掲示板」、グローバルフェスタ等外部イベント等での広報	当会の学習支援室ボランティア登録者から、参加可能な方	RENのHP、活動報告書やスタッフによる呼びかけ
活動形式 （個別・グループ・サロン・教室型）	・緩やかなレベル別の少人数のクラス授業 ・複数の講師で1クラスを担当し、複眼的な視点で学習者を見る ・必要に応じて補講を実施。	状況に応じレベル別に1人～8人程度の1～3グループに分かれて活動。現在は初級者と中級者の2クラス。毎回合同の活動時間あり。	基本的には個別・固定 ＊シフト制をとり、活動開始前にマッチング終了レベル別（日本語能力試験対策含む）グループ支援もある ＊状況に応じてできる限り柔軟に対応	・5名前後の少人数グループ ・指導者1名＋アシスタントボランティア1名以上 ・必要に応じて母語での補習を実施（実績なし）	3～5名程度のグループ指導。必要に応じて1:1の個人指導。日本語既習難民との会話による雑談（母国の実情、日本での生活など）。年に一度、成果報告を兼ねて、日本語スピーチ大会を実施。
使用教材	各クラス・各学習者に合わせた講師によるオリジナル教材。漢字テキスト等は必要に応じ、市販教材を活用。	各グループ、各学習者に合わせたオリジナル教材	学習ペアごとに決定 ＊初級グループでは『みんなの日本語』を使う場合が多い、語彙訳があることが大きな理由	・クラスにあわせて指導者作成のオリジナル教材 ・「はじめての500語」（当会作成）	「みんなの日本語」ほか
特徴や共有 したい事項	①高等教育を受けた人から、非識字者まで、幅広い背景・レベルの学習者各人のニーズにきめ細かに対応。 ②同時に背景・レベル差の違いを超えた協働学習・相互学習を重んじる。 ③定住に向けて前向きな姿勢と自信がもてるよう、エンパワメント、人間関係構築力を重視し、また地域交流、体験行動型学習を多く取り入れている。 ④詩や歌の活動など身体性アプローチによる日本語学習。 ⑤毎日の学習日記、中間・終了時の自己評価等を通し、退所後の自律学習力を高める。 ⑥毎月の講師連絡会や日々の詳細な授業報告により学習者の進度に応じてカリキュラムを柔軟に調整。 ※政府委託により実施。定住支援プログラムに参加できるのは1人1回。複数回の参加は不可。	・平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（A） ・学習者、講師、併設支援者研修の受講者（支援者として参加）相互の学びの場。 ・学習者は難民認定者だけでなく申請中や在留特別許可、その家族も多い。一方で難民に限るのではなく、その知り合いなども学びたい人は一緒に学べるよう門戸を広く開いている。 ・お寺のホールを借り、折々に境内でのお月見や戸外活動を楽しむ。	①日本語学習支援を幅広くとらえ、学習者のニーズや要望にできる限り対応 ②生活力向上のためのワークショップ開催（第一土曜日） ③カフェコーナー（第2土曜日）、セルフおむすびデイ（第3土曜日） ④オリジナル教材は、ホームページで公開 ※目黒教室には神奈川県、埼玉県からも通学、墨田区錦糸町教室には埼玉県、千葉県からも通学	・平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（A） ・「体験を通して学ぶ」ことを軸に展開。「自己紹介」「買い物」「ファーストフード店の注文」「日本料理をつくる、試食する」「日本人のおしゃべりを楽しむ」「防災センターを訪ねる」「薬局に行く」などの体験を重ねながら、様々な場面に応じた日本語を習得していく ・毎回振り返りシートにより自己評価 ・開始時、開始後に日本語のレベル調査 ・（文化庁委託事業）全体コーディネーター、（日本語教室）コーディネーター、指導者で随時相談	体系的な指導よりは、実生活に即した内容。 生徒間のレベルの違いはあるが、生徒同士で助け合って進められるメリットもある。 話すことやコミュニケーションをとることで、抱えているストレス開放にも寄与している模様（引き続きヨガ教室も含めて）。 生徒は皆熱心で、上達は著しい

【難民への日本語教育を俯瞰する】

2017年12月17日実施

団体名	認定NPO法人 難民支援協会	カトリック東京国際センター CTICなんみんサービス	NPO法人PEACE	社会福祉法人 日本国際社会事業団	VEC（Villa Education Center）
講座発表 テーマ	就労支援の一環としての日本語教育	難民の居場所としての日本語教室	難民当事者が主催する日本語教室	社会統合促進のためのムスリム系難民（女性）に対する日本語教育	（難民とともに学ぶ日本語活動）
日本語教育 の目的	来日した難民が早期に日本社会で自立していけることを目指す	基礎的な日本語能力の取得。 日本語を学ぶためのきっかけ作り。	ミャンマー難民、コミュニティの成人のエンパワメント	・女性が日常生活に必要な日本語を習得すること ・自分および子育てへの自信を深めること ・女性たちの居場所ができること ・円滑な社会統合を実現すること	より公正な社会づくりを目指した相互学習に関わること
活動場所 （区市町村）	港区	カトリック本郷教会（文京区本駒込）	新宿区	群馬県館林市	豊島区
活動日・時間	月、火、水、木、金9:30-12:30	毎週火曜日、水曜日 12:00～ 交流ランチ 13:00～16:00 日本語教室	新宿区 毎週日曜日17:30-19:30	・月曜日10:00-12:00 ・金曜日13:30-15:30	毎週日曜日10:00-12:00
学習期間	3ヶ月間、1.5ヶ月毎に開始	随時開始、一期13回（年3期）	5月から翌年3月	10か月（3期制）、継続可	特に決まっていません
対象者	来日直後の難民申請者	難民、難民申請者	ミャンマー難民、コミュニティの20代から70代の成人	館林市周辺に暮らすムスリム女性（ロヒンギャの女性を中心に）	（原則的に）誰でも参加できます
学習者募集 の方法	当協会登録者に対し、カウンセリング時に紹介	他団体からの紹介、学習者からの紹介	コミュニティのネットワーク	コミュニティ内での呼びかけ、学習者からの紹介	本活動では「学習者」ということばは使いません。活動に関わる全員が参加者です。参加者からの紹介です。
学習支援者	当協会と提携した民間日本語学校日本語教師	全てボランティア（日本語教師や有資格者含み、基本的には大学生から定年退職者まで）	インターカルト日本語学校より有資格講師	・コーディネーター ・日本語教師 ・ボランティア（託児）	この活動には学習支援者はいません。むしろ「支援する者・される者」という固定的な枠組みをずらしていくことを志向しています。
学習支援者 募集の方法	提携先勤務の日本語教師の中から選出	Web、各種ネットワーク団体のメーリングリスト、学習支援者からの紹介。	都内で複数の語学教室より、教育理念などを検討し選定	公募はしていない	学習支援者はいませんが何度かビジターとして参加した方がファシリテーターになっていくことがあります。
活動形式 （個別・グルー プ・サロン・教室 型）	教室型 1クラス10人前後	個別・クラス・グループレッスン ＊活動時前にマッチング終了 ＊レベル別 ＊状況に応じてできる限り柔軟に対応	レベル別3クラスによる教室運営。 講師は一年間固定	教室型 （レベル別2クラス、各期の終わりにクラス移動あり）	原則的に参加者全員で一つの島を作っての活動です。活動の中でペアやグループワークもありますが、それを全員で共有します。共有方法はポスター発表、口頭でのプレゼン、演劇など様々です。日本語以外に、ビルマ語、英語、中国語などが活動で使用されています。
使用教材	日本語学校独自の教材	にほんごこれだけ！（1）（2） オリジナル教材	レベルごとに生活者としての日本語を習得できるよう工夫している	・はじめまして にほん ・社会参加のための日本語通信講座 ・かんじ だいすき	NHKのNews Web Easyを利用することが多いですが、「教材」ではなく「素材」に過ぎません。
特徴や共有 したい事項	日本語を学ぶだけではなく、行動が伴うことができるカリキュラム。日本で働くことは何か、文化理解と日本語学習を通じて獲得する。 特徴 ①自立を主眼とした、実践的なものである ②難民特有の背景を理解した日本語教師が指導担当 来日後早期から対象とする	①日本人と難民との出会いの場になっている。特に学生にとって、学びの場になっている。 ②難民と難民との情報交換の場になっている。 ③難民の日本での「ホームHome」になっている。 ④総合的な生活支援 ～食料、衣類、日用品、医療、相談支援	・平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（B） ①当事者が主催することにより、学習者のニーズに配慮して対応 ②生活者としてのニーズに対応した年金制度や防災、日本の文化などに関する学びの機会を提供している	・平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム（B） ・女性講師による女性のための日本語教室としていること ・当事者（ロヒンギャ女性）の意向を取り入れたスケジュール／カリキュラムとしていること ・子連れでの参加が可能な教室としていること ・地域の公共施設を利用し、社会参加の一助としていること ・遠方からの参加希望も出ていること	①「より公正な社会づくりを目指した相互学習」としての言語教育は、十分な活動デザインと準備、実践とその振り返り、振り返りに基づいた改善とそれを踏まえた実践というサイクルによって成立します。活動毎にファシリテーター、そして、時にはビジターも含めて90分ほどの振り返りをし、それを記録にとめています。 ②「難民への日本語教育」という視点は持っていません。「難民も参加する日本語を主に使用する活動」であると考えています。